

## 指定管理者制度導入施設の管理運営に関する評価票(評価対象年度:平成30年度)

施設 の 名 称	宮城県介護研修センター
指 定 管 理 者 の 名 称	社会福祉法人宮城県社会福祉協議会
施 設 所 管 部 課 ( 室 )	宮城県保健福祉部長寿社会政策課

## 1. 当該施設の管理形態の推移【施設所管課記入】

期 間	管理形態	指定管理者(管理受託者)の名称	摘 要
平成21年 4月 ~ 平成24年 3月	指定管理者	社会福祉法人宮城県社会福祉協議会	
平成24年 4月 ~ 平成27年 3月	指定管理者	社会福祉法人宮城県社会福祉協議会	
平成27年 4月 ~ 令和2年 3月	指定管理者	社会福祉法人宮城県社会福祉協議会	

(注)管理形態欄には、直営・管理委託・指定管理者の別を記入してください。

## 2. 現指定管理者の概要【施設所管課記入】

指 定 管 理 者 の 名 称	名 称	社会福祉法人宮城県社会福祉協議会
	所在地	仙台市青葉区上杉一丁目2番3号
指 定 期 間	平成27年 4月 1日 ~ 令和2年 3月31日 (5か年)	
募 集 方 法	<input checked="" type="checkbox"/> 公募 <input type="checkbox"/> 非公募	

## 3. 施設の概要【施設所管課記入】

施 設 の 名 称	宮城県介護研修センター	
所 在 地	大崎市鹿島台平渡字上屋敷19-7	
設 置 年 月	平成6年 4月	
根 拠 条 例 等	介護研修センター条例(平成17年宮城県条例第114号)	
設 置 目 的	介護に関する研修, 相談等を行い, その知識及び技術の普及に資すること	
施 設 の 内 容	敷 地 面 積	1,485,60㎡
	構 造	SRC(鉄骨鉄筋コンクリート構造)
	内 容	相談室, 図書資料室, 研修室, 会議室, 福祉用具展示室, 宿泊室
開 館 ( 所 ) 日	日曜日及び土曜日, 国民の祝日に関する法律に規定する休日, 12月29日から翌年の1月3日までの日を除く日	
開 館 ( 所 ) 時 間	午前 9時00分 ~ 午後 5時00分	
指 定 管 理 者 が 行 う 業 務 の 範 囲	1 施設全体の管理運営業務 2 施設の運営業務 3 施設全体の維持管理業務 4 使用料の徴収業務 5 その他当該施設の管理運営に関して, 知事が必要と認める業務	
利 用 料 金 制	採 用 の 有 無	<input type="checkbox"/> 有 <input checked="" type="checkbox"/> 無
	利 用 料 金 の 名 称	

4. 施設利用実績【施設所管課記入(太枠内は指定管理者記入)】

(1) 開館(所)日数及び利用者数

項 目	事業計画	実 績		対計画比 (C)/(A)	対前年度比 (C)/(B)
	評価対象年度 (平成30年度) (A)	前 年 度 (平成29年度) (B)	評価対象年度 (平成30年度) (C)		
開館(所)日数	243 日	246 日	244 日	100.4%	99.2%
延べ利用者数	5,330 人	5,185 人	4,240 人	79.5%	81.8%

(注)対象施設が複数ある場合は、施設ごとに記入してください。

(2) 延べ利用者数の内訳

項 目	事業計画	実 績		対計画比 (C)/(A)	対前年度比 (C)/(B)
	評価対象年度 (平成30年度) (A)	前 年 度 (平成29年度) (B)	評価対象年度 (平成30年度) (C)		
介護講座等受講者	4,080 人	3,690 人	3,206 人	78.6%	86.9%
展示室見学者(スポット講座含む)	350 人	333 人	388 人	110.9%	116.5%
宿泊者	300 人	330 人	165 人	55.0%	50.0%
福祉用具相談支援	100 人	166 人	139 人	139.0%	83.7%
その他(会場貸出等)	500 人	805 人	342 人	68.4%	42.5%
合 計	5,330 人	5,324 人	4,240 人	79.5%	79.6%

※福祉用具相談支援については相談総数となっている。

5. 管理運営収支実績【施設所管課記入(太枠内は指定管理者記入)】

(1) 収入

(単位:千円, %)

項 目	事業計画	実 績		対計画比 (C)/(A)	対前年度比 (C)/(B)
	評価対象年度 (平成30年度) (A)	前 年 度 (平成29年度) (B)	評価対象年度 (平成30年度) (C)		
県指定管理料	33,200	33,200	32,120	96.7%	96.7%
利用料金収入	0	0	0	#DIV/0!	#DIV/0!
その他	0	0	0	#DIV/0!	#DIV/0!
収入計 (a)	33,200	33,200	32,120	96.7%	96.7%

(2) 支出

人件費	24,535	23,407	24,515	99.9%	104.7%
施設管理費	3,500	4,941	2,639	75.4%	53.4%
事業運営費	5,767	2,741	4,890	84.8%	178.4%
その他		1,231		#DIV/0!	0.0%
支出計 (b)	33,802	32,320	32,044	94.8%	99.1%

(3) 収支

収 支 (c)=(a)-(b)	-602	880	76	-12.6%	8.6%
前期繰越収支差額		586		#DIV/0!	0.0%
次期繰越収支差額		1,467		#DIV/0!	0.0%

※ 自主事業を実施している場合は、上記に準じて、自主事業の収支実績を別掲すること。

自主事業分

(1) 収入

(単位:千円, %)

項 目	事業計画	実 績		対計画比 (C)/(A)	対前年度比 (C)/(B)
	評価対象年度 (平成30年度) (A)	前 年 度 (平成29年度) (B)	評価対象年度 (平成30年度) (C)		
県指定管理料	0	0		#DIV/0!	#DIV/0!
利用料金収入	138	147	138	100.0%	93.9%
その他		0		#DIV/0!	#DIV/0!
収入計 (a)	138	147	138	100.0%	93.9%

(2) 支出

人件費		0		#DIV/0!	#DIV/0!
施設管理費		0		#DIV/0!	#DIV/0!
事業運営費	138	147	138	100.0%	93.9%
その他		0		#DIV/0!	#DIV/0!
支出計 (b)	138	147	138	100.0%	93.9%

(3) 収支

収 支 (c)=(a)-(b)	0	0	0	#DIV/0!	#DIV/0!
前期繰越収支差額		0		#DIV/0!	#DIV/0!
次期繰越収支差額		0		#DIV/0!	#DIV/0!

6. 評価対象年度(平成30年度)の管理運営評価【指定管理者・施設所管課記入】

項目	事業実績 【指定管理者記入】		指定管理者の自己評価 【指定管理者記入】		県の評価 【施設所管課記入】		
	評価	評価	評価	評価			
①管理運営体制	<p>宮城県社会福祉協議会の経営理念及び経営方針に基づき、運営の基本方針を定め、年間の事業計画を策定するとともに、法人の諸規程に基づいた必要な帳簿等を作成し、適正な施設運営を行いました。</p> <p>また、年度協定における人員配置計画に基づく必要職員数及び有資格者の確保・配置に努めました。</p> <p>職員研修については、福祉用具相談に関わるスキルアップ、介護についての情報収集等の研修に派遣した。(18回/延べ22人)</p>		<p>宮城県社会福祉協議会の経営理念及び経営方針に基づき、運営の基本方針を定め、年間の事業計画を策定するとともに、法人の諸規程に基づいた必要な帳簿等を作成し、適正な施設運営を行いました。</p> <p>また、年度協定における人員配置計画に基づく必要職員数及び有資格者の確保・配置に努めました。</p>		A	<p>少ない人員体制であるが、職員がカバーしあいながら、効率的な管理運営を実施したと認められる。</p>	A
人員体制	正規	3人	非正規	2人			
②施設・設備の維持管理業務の実施	<p>施設・設備の維持管理業務については、指定管理に関する管理運営業務仕様書に基づき、定期的な保守・点検・整備に努めた。</p> <p>また、トイレ水漏れ修繕、宿泊棟ダウンライトの交換及び多目的ホール水銀灯交換及び避難誘導灯バッテリー交換等研修や非常時の対応に支障が出ないよう、修繕等を行った。</p>		<p>施設・設備の維持管理業務については、継続的、安定的に機能の保全が図られるよう、専門知識を有する業者へ委託し、適切に実施した。</p> <p>事業(講座・研修)に支障が出ないよう、より良い研修環境の整備に努めた。</p>		A	<p>必要に応じ、専門の業者へ委託して修繕等を行い、施設・設備の維持管理業務を適切に実施したと認められる。</p> <p>また、築25年が経過し、設備面での老朽化が見られるため、特に利用者からの要望の強い箇所について、予算の範囲内で工夫して修繕対応を実施したことが認められる。</p>	A
③運営業務(ソフト事業等)の実施	<p>上記「4.施設利用実績」のとおり</p> <p>1 委託研修の実施</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・認知症介護実践者研修</li> <li>・認知症介護実践リーダー研修</li> <li>・認知症対応型サービス事業管理者研修</li> <li>・小規模多機能型サービス等計画作成担当者研修</li> <li>・認知症対応型サービス事業開設者研修</li> <li>・認知症介護基礎研修</li> </ul> <p>2 介護講座</p>		<p>計画どおりに事業を実施したほか、他の事業(スポット講座6回168人、講師派遣6回199人、福祉用具・住宅改修適正活用研修1回22人の他、県内大学の実習(見学含む)の受入として2回106人)も行い、介護に関する普及・啓発に努めることができた。</p>		A	<p>指定管理業務に加え、県が委託した各種研修も適切かつ効果的に実施したと認められるが、利用者増加に向けて引き続きホームページや広報等で周知徹底していく必要がある。</p>	B
④自主事業の実施	<p>テーマを「介護施設で死ぬという事」とし、特別公開講座を開催した。</p> <p>講師:介護アドバイザー高口光子氏</p> <p>参加者数:69人</p>		<p>施設における看取り及びターミナルケアについて、参加者(特に福祉施設職員)に対する啓蒙・啓発が十分に図られたほか、介護職の良さも実感する参加者も多く、実施の成果があった。</p>		A	<p>参加者も多く、適切に実施された研修だと認められる。</p>	A
⑤利用者サービスの向上	<p>多くの方が情報を得やすいように、ホームページを活用した情報提供を基本としている。</p> <p>定員に達した講座等については、締切った時点で速やかに情報提供する等随時更新を行ってきた。</p> <p>また、事業(研修・講座)に応じて法人本部ホームページの活用、県内各市町村・市町村社協等へ周知した。</p>		<p>情報提供の他、介護や医療・福祉における施策・動向を注視し、講師の人選やテーマについても、日頃より情報収集を行った上で運営委員会に諮り、講座内容等についてアドバイスを受けて講座内容に反映する等、利用者サービスの向上に努めた。</p>		A	<p>利用者向け情報提供のみならず、講師の人選や講座の内容が十分に検討されており、利用者に対するサービス向上が図られたと認められるが、利用者増加に向けて引き続きホームページや広報等で周知徹底していく必要がある。</p>	B
⑥利用者の苦情、要望等の把握とその反映	<p>苦情については、0件であった。</p> <p>要望については、研修・講座毎に受講者からアンケートを取り、内容検討の参考として活用したほか、結果を集約した後、講師へ提示して次回研修時の改善点を共有した。</p>		<p>介護講座では、募集定員を超えた申込みの講座も複数あったことから、ニーズに即した事業実施とらえている。また、委託研修(認知症関連)に対する要望事項(内容や講義時間等)については、改善が望ましい点を講師との会議の際に協議し、次年度実施時の反映を検討しており、要望等の把握及び反映に努めてきた。</p>		A	<p>すべての講座で受講者アンケート調査が実施されている。苦情は特段なく、利用者の満足度は高いものと判断される。また、委託研修(認知症関連)に対する要望については、今年度実施時に改善が望ましい点を反映することが望まれる。</p>	A
⑦安全対策	<ul style="list-style-type: none"> <li>・利用者の安全を確保するため、法令に基づく防災訓練を実施した。</li> <li>・日中、職員による巡視及び業務委託警備による夜間定時巡回を実施した。</li> <li>・研修・講座開催時には、オリエンテーションの際に必ず受講者へ非常時の説明を行った。</li> <li>・敷地内での自動車事故防止の観点から、研修申込者数の状況によって職員が誘導した。</li> </ul>		<p>法人共通の危機管理計画に基づきリスク管理のほか、受講者を第一とした安全配慮も職員が共有して対応することができた。</p>		A	<p>無事故、無過失であり、防災訓練を実施するなど、適切な対策がなされていると認められる。</p>	A
⑧県民の平等利用	<p>多くの方が情報を得やすいように、ホームページによる情報提供を基本としている。</p> <p>基本情報(講座・研修毎の申込期間及び募集定員等)以外にも事業によっては先着順又は抽選によるものと記載している。</p> <p>定員超過した講座についても、これまでのノウハウを活かした会場レイアウトの調整により、最大限の受講者受入れに努めた。</p>		<p>会場設営でも調整が困難な申込の場合には、他講座の案内及び他期の研修日程で調整を図る等受講希望者を第一とした対応を行うことができた。</p>		A	<p>受講申込の受付の工夫や、会場設営の工夫がなされており、県民に対する平等な利用に配慮していると認められる。</p>	A

項目	事業実績 【指定管理者記入】	指定管理者の自己評価 【指定管理者記入】		県の評価 【施設所管課記入】	
			評価		評価
⑨個人情報の保護	研修申込により知り得た個人情報については、研修目的以外には利用しないことを申込書類へ記載している他、館内にも掲示している。	宮城県社会福祉協議会個人情報・特定個人情報保護規程に基づき個人情報は適切に管理した。	A	宮城県社会福祉協議会の個人情報・特定個人情報保護規程により、個人情報は適正に取り扱われていると認められる。	A
⑩利用実績	上記「4.施設利用実績」のとおり	ほぼ計画どおりに実施することができた。一部委託研修では、予定人員に対して申込者数が減となったものもあるが、対前年度比約9割であり、一定の成果があった。	A	受講希望者多数の講座について受入数を増やすなどの対応により多くの方が受講できるよう工夫して実施していると認められるが、利用者増加に向けて引き続きホームページや広報等で周知徹底していく必要がある。	B
⑪収支実績	上記「5.管理運営収支実績」のとおり	人員及び予算による経営を念頭に、適切なセンター運営に努めた。	A	経費節減に努めたものと認められる。	A
⑫その他の取組	<ul style="list-style-type: none"> <li>・県社会福祉協議会の一施設として、市町村社会福祉協議会及び介護事業所との連携を推進した。</li> <li>・冷暖房の適正管理、電気水道等の効率利用、コピー紙の節約に取り組み環境配慮を推進した。</li> <li>・宿泊使用料徴収実績：165人/74,250円</li> <li>・研修室使用料1件(15人・3日間)/29,700円</li> <li>・減免申請により無料貸出の実績としては、3件/224人であった。</li> <li>・重度障害者コミュニケーション機器導入支援業務(県障害福祉課)を受託した。</li> <li>・介護職員勤務環境改善支援事業専門職コンサルタント業務(県長寿社会政策課)を受託した。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・不用部分の消灯及び冷暖房の適正な温度設定には特に注意を払った。</li> <li>・重度障害者コミュニケーション機器導入支援業務では、外部専門スタッフとして情報提供及び技術支援を行った。</li> </ul>	A	事務用経費の節減が図られており、高く評価できる。	A
総合評価		業務水準を低下させることなく滞りなく業務を遂行した。	A	概ね平成30年度の計画どおり効果的に各種事業が実施され、また、施設の管理運営も適正に実施されており、評価できる。	A

【指定管理者が行う自己評価の基準(目安)】

評価	評価の考え方
S	年度事業計画書等の内容を上回る実績であり、優れた管理運営を行った。
A	年度事業計画書等の内容と同程度の実績であり、適正な管理運営を行った。
B	年度事業計画書等の内容を下回る実績であり、さらなる工夫・改善が必要である。
C	年度事業計画書等に基づく管理運営が適切に行われなかった。大いに改善努力が必要である。

【県が行う評価の基準(目安)】

評価	評価の考え方
S	年度事業計画書等の内容を上回る実績であり、優れた管理運営が行われた。
A	年度事業計画書等の内容と同程度の実績であり、適正な管理運営が行われた。
B	年度事業計画書等の内容を下回る実績であり、さらなる工夫・改善が必要である。
C	年度事業計画書等に基づく管理運営が適切に行われたとは認められず、大いに改善努力が必要である。

7. 施設管理運営の課題等【指定管理者・施設所管課記入】

項 目	指定管理者 【指定管理者記入】	県 【施設所管課記入】
管理運営の課題等	<p>介護従事者の専門職としての資質向上が社会的に求められている中で、研修を通じたスキル習得の場として県内では当センターが拠点となっており、引続き専門性の高い良質な研修の企画・実施に努めていく。</p> <p>また、福祉用具の相談支援はニーズが多く、特に用具の適合調整や生活環境支援についての信頼が高く、セーフティネットの役割を果たしている。今後も、公共性、広域性、中立性の方針により、他機関では対応が行き届かない領域において、一過性ではない専門的支援を展開していくことで、当センターの存在意義を強調する必要がある。</p> <p>研修に支障が生じないよう建物・設備等の維持管理に努めているが、設置から25年経過していることから、建物・設備の老朽化が目立ち、多目的ホール等の照明器具については全面的な交換が必要となっている。</p>	<p>現体制で利用者の満足度が高まるよう、引き続き適正な運営を求める。</p> <p>公共性、広域性、中立性の方針により、他の機関では対応が行き届かない領域において、一過性ではない専門的支援の展開及び存在意義の強調を強く求める。</p> <p>また、建物・設備の老朽化については、必要な修繕箇所の洗い出しをし、随時検討の上管理を行う。</p>